１．　環境学習コーディネート実施概要（Web 掲載）

依頼№	12	事例№	11	依頼者	東邦ガス広報部ガスエネルギー館	実施場所	東邦ガス広報部ガスエネルギー館
実施対象	小学生とその保護者　93 名（子ども 46 名、保護者 47 名）						
実施日時	令和 7 年 9 月 14 日（日）10 時 30 分～12 時、13 時 30 分～15 時						
テーマ	ぽっぽ&ぴっぴちゃんのエコ教室　『わくわく！ぐるぐるトルネード実験&マイえんぴつづくり』						

●依頼内容

SDGs 全般をテーマに、子どもたちが主体となって楽しく学ぶことができる環境学習の企画と講師を紹介してほしい。

●講師：村瀬政彦 氏（愛知県地球温暖化防止活動推進員、あいち eco ティーチャー）

村瀬政彦氏は、ごみ・資源循環・3R、エネルギー問題などを専門とされ、愛知県地球温暖化防止活動推進員であるとともに、「あいち地球温暖化対策人材登録・紹介ネット（温暖化まなびネット）」、「あいち eco ティーチャー」にも登録されている。

●授業の内容

講義	講義は、地球温暖化と水資源をテーマに行われた。大気中の二酸化炭素は海や樹木によって吸収されているが、人間が出す二酸化炭素の量がその吸収量を超えてしまったために地球温暖化が進んでいることを学んだ。また、地球上にはとてもたくさんの水があるように見えるけれども、人間が使うことのできる水の量はわずかであることを学んだ。その上で、地球温暖化を止め、地球の環境を守るために、節電や節水をするだけではなく、水を汚さないように心がけてほしいと呼びかけられた。	30 分
実験・観察	空の 2 本のペットボトルに水を入れ、注ぎ口同士を連結させる実験セットを使って、ペットボトル内の水で渦を起こす実験を行った。つづいて、ふたり一組になり、ひとりはトイレットペーパーを、もうひとりはティッシュペーパーをペットボトルの水の中に入れて同様の実験を行い、水の中の様子を観察した。トイレットペーパーは次第に繊維がほぐれ、ばらばらになったのに対して、ティッシュペーパーは全くほぐれないことを確認し、水に流してはいけない理由を学んだ。さらに、講師から、水に溶けるものであっても、水を汚してしまう油や牛乳、食べ残しなどのごみは流さないようにしようと呼びかけられた。	25 分
休　　憩		5 分
工作	鉛筆をつくる際に出るおがくずを原料とする粘土に鉛筆の芯を入れ、環境にやさしい「マイえんぴつづくり」に取り組んだ。	30 分

●授業の様子

講義では、講師から地球温暖化や水に関わるクイズや質問が投げかけられ、多くの子どもたちが手を挙げ、元気に答えていた。「ぐるぐるトルネード実験」では、水の渦をなかなか上手く作れず苦労する様子も見られたが、コツをつかむと楽しそうに何度も試し、ティッシュペーパーとトイレットペーパーのほぐれ方の違いを観察していた。「マイえんぴつづくり」では、粘土から鉛筆の臭いがすることに驚きながら、動物や食べ物のかたちにするなど、自由な発想で鉛筆づくりに取り組んでいた。

地球温暖化と水資源について学んだ。



おがくず粘土を使って鉛筆づくりに取り組んだ。

